⑻　国民全体の安全・健康意識の高揚等

ア　高校、大学等と連携した安全衛生教育の実施

・　職場における安全確保や健康管理の仕組み、メンタルヘルス等に係る基礎知識等について、文部科学省と連携しつつ、学校保健安全法に基づく「学校安全の推進に関する計画」等を活用した学校教育への取込み等を働きかける。

・　産業機械、産業用ロボット、プラント及びインフラ（土木建築）の設計や施工管理をすることになる大学の理工系学部の学生を対象として、安全衛生施策、安全衛生に関する国際規格・認証、システム安全設計、安全制御、リスク評価等を体系的に教育するカリキュラムを策定し、大学に導入を働きかける。

イ　危険体感教育及び震災に備えた対策の推進

・　労働者の危険感受性の低下が、労働災害が減少しない原因の一つとなっているとの指摘があることを踏まえ、ＶＲ（バーチャル・リアリティ）技術を応用した危険感受性を高めるための教育の推進を図る。

・　大規模地震等の自然災害が発生した際に、被災建築物等のがれきの撤去作業や被災建築物等の解体工事において石綿ばく露防止が円滑に図られるよう、環境省のマニュアルも踏まえつつ、被災状況に応じた指導・周知等の対応を行うとともに、マスクや手袋等の保護具の円滑な確保等のばく露防止対策の推進を図る。(再掲)

ウ　2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会を活用した健康促進

・　身体活動は、抑うつや不安の発生の予防、これらの症状の改善に有用であることが明らかになってきている。2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催により、広く国民のスポーツへの関心が高まることを踏まえ、スポーツ庁と連携して、スポーツ基本計画と連動した事業場における労働者の健康保持増進のための指針（昭和63年健康保持増進のための指針公示第１号）の見直しを検討するなど、運動実践を通じた労働者の健康増進を推進する。

エ　技能検定試験の関係団体との連携

・　職業能力開発促進法に基づく技能検定試験の関係団体と連携して、安全衛生に係る最新のデータや行政動向を技能検定の受検者をはじめとする労働者等に対して提供することにより、安全衛生に関する知見の普及を推進する。

オ　科学的根拠、国際動向を踏まえた施策推進

・　科学的根拠に基づいた施策を推進するため、独立行政法人労働者健康安全機構と連携し、産業機械や化学物質等の安全衛生に関する研究を推進する。

・　安全衛生に関する施策は、諸外国の知見や施策の動向を踏まえながら推進する必要があるため、研究等により諸外国の最新の知見、動向を把握するとともに、我が国の現状も十分に踏まえ、施策に活用する。

・　独立行政法人国際協力機構（ＪＩＣＡ）、中央労働災害防止協会等との連携を確保しつつ、安全衛生分野の国際貢献を積極的に推進する。

海洋生物資源の保存及び管理に関する基本計画の変更の公表について

三十海洋生物資源の保存及び管理に関する法律（平成八年法律第七十七号）第三条第七項の規定に基づき、海洋生物資源の保存及び管理に関する基本計画（平成二十九年十一月二十九日公表）の一部を平成三十年二月二十七日付けで次のように変更したので、同条第九項の規定において準用する同条第六項の規定に基づき、公表する。

平成三十年三月十九日

農林水産大臣　齋藤　健

海洋生物資源の保存及び管理に関する基本計画の一部を次のように改正する。

次の表により、改正前欄に掲げる規定の傍線部分で、これに対応する改正後欄に掲げる規定の傍線部分が付した部分（以下「傍線部分」という。）で、これに対応する改正後欄に掲げる規定の傍線部分がないものは、これを加える。

改正後	改正前
第１　（略）	第１　（略）
第２　特定海洋生物資源ごとの動向に関する事項	第２　特定海洋生物資源ごとの動向に関する事項
１　第１種特定海洋生物資源ごとの動向	１　第１種特定海洋生物資源ごとの動向
⑴～⑸　（略）	⑴～⑸　（略）
⑹　まさば及びごまさばの動向	⑹　まさば及びごまさばの動向
我が国周辺水域のまさばは、太平洋に分布する太平洋系群と日本海及び東シナ海に分布する対馬暖流系群に、また、ごまさばは、太平洋に分布する太平洋系群と主に東シナ海に分布する東シナ海系群に大別され、それぞれ両系群は一部水域において混在して分布している。全般としては、ごまさばは、まさばに比べ南方域に分布しているが、近年、太平洋では北海道沖合まで分布が見られている。	我が国周辺水域のまさばは、太平洋に分布する太平洋系群と日本海及び東シナ海に分布する対馬暖流系群に、また、ごまさばは、太平洋に分布する太平洋系群と主に東シナ海に分布する東シナ海系群に大別され、それぞれ両系群は一部水域において混在して分布している。全般としては、ごまさばは、まさばに比べ南方域に分布しているが、近年、太平洋では北海道沖合まで分布が見られている。
まさば太平洋系群は、2004年、2007年、2009年、2013年に豊度の高い加入があり、2016年の資源量は235万トンである。親魚量から資源水準は中位と判断され、また、過去５年間（2012年～2016年）の親魚量の推移から動向は増加と判断されるが、北西太平洋公海での外国漁船による採捕の影響も懸念されることから、その動向には注意が必要である。まさば対馬暖流系群の2016年の資源量は59万トンで、親魚量から資源水準は低位、過去５年間（2012年～2016年）の資源量の推移から動向は増加と判断される。ごまさば太平洋系群の2016年の資源量は23.4万トンで、親魚量と資源量から資源水準は中位、過去５年間（2012年～2016年）の資源量の推移から動向は減少と判断される。ごまさば東シナ海系群の2016年の資源量は13.1万トンで、親魚量から資源水準は中位、過去５年間（2012年～2016年）の資源量の推移から動向は横ばいと判断される。	まさば太平洋系群は、2004年、2007年、2009年、2013年に豊度の高い加入があり、2015年の資源量は135万トンである。親魚量から資源水準は中位と判断され、また、過去５年間（2011年～2015年）の資源量と親魚量の推移から動向は増加と判断されるが、北西太平洋公海での外国漁船による採捕の影響も懸念されることから、その動向には注意が必要である。まさば対馬暖流系群の2015年の資源量は77万トンで、親魚量から資源水準は低位、過去５年間（2011年～2015年）の資源量の推移から動向は増加と判断される。ごまさば太平洋系群の2015年の資源量は44万トンで、漁獲量と資源量から資源水準は高位、過去５年間（2011年～2015年）の資源量の推移から動向は減少と判断される。ごまさば東シナ海系群の2015年の資源量は10万トンで、親魚量から資源水準は中位、過去５年間（2011年～2015年）の資源量の推移から動向は減少と判断される。
まさば及びごまさばは、共に新規加入群の状況によって変動が大きいことから、資源動向について今後とも注視する必要がある。	まさば及びごまさばは、共に新規加入群の状況によって変動が大きいことから、資源動向について今後とも注視する必要がある。